



▲女山大根を使った料理が振る舞われました



▲品評会の表彰式の様子



YouTube で動画が見えます！



西多久の冬の風物詩

鬼火焚き・七草粥・女山大根まつり

Saturday

1/12

鬼火焚き・七草粥・女山大根まつり(主催：西多久町を考える会)が宝満山公園と西多久公民館で行われ、100人以上が参加し、大盛況でした。このイベントは1年間の無病息災を願い、西多久町の伝統野菜を多くの人たちに味わってもらうために毎年開催されています。

品評会では、市長賞に諸江初則さん、JA組合長賞に蒲原政信さん、西多久町を考える会長賞に富永昇さん、優秀賞に馬場義則さん、富永みゆきさん、野口ミヨ子さんの合計6人が選ばれました。今年は、台風などの影響で発育が悪かったため、全体的に小ぶりではありましたが、来場者は「大きくて甘くてシャキッとして美味しかった」と笑顔で話されました。

Sunday

1/20



YouTube で動画が見えます！



着るセンサー

「Xenomaスーツ」で近未来を体験

着るセンサー「Xenomaスーツ」の体験ワークショップ(主催：多久市教育委員会)を郷土資料館で開催しました。

明治維新150年記念特別企画展「志田林三郎～幕末を駆け抜け未来を予見した若き電気工学者～」の記念イベントとして行なったワークショップでは、開発に携わった東京大学大学院工学系研究科の横田知之講師が、スポーツや医療で活用されるであろう可能性を解説しました。参加者は電気信号で動きを伝える「Xenomaスーツ」を着て、画面のキャラクターが連動して動くゲームを体験しました。約20人の参加者は「難しい！でも、すごい」など思い思いの動きでゲームを楽しみました。



▲Xenomaスーツでゲームを楽しむ参加者

▲ウェアラブルスーツの可能性を語る横田講師



▲最終討論で、自分の意見をしっかりと述べました



▲質疑で意見を述べる児童

自分の意見を堂々と！

初の「こども議会」を開催

多久市で初となる「子ども議会」(主催：多久市議会)を市議会議場で行い、市内義務教育学校の6年生8人が議会の仕組みや条例決定の過程を学びました。市からは横尾俊彦市長ら4人が出席し、議員役の子どもたちと「児童のボランティア参加」を推進する条例案を議論しました。子ども議員は積極的に疑問や意見をぶつけた結果、条例案は賛否同数となり、議長裁決で「可決」されました。

参加した児童は「議員席に座った時は緊張したけど、自分の意見をしっかりと発言することが大切だと感じました」と話し、子ども議会を通じて、地域や市政への興味を深めていました。

Saturday

1/26